

平成29年度 学校経営計画に対する最終報告書

		石川県立羽咋工業高等学校		
重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
1 生徒全員の進路実現のため、全教職員が、ICT活用やAL型授業の推進等を掲げた本校の学習指導方針(スクールポリシー)のもと、学力スタンダード等を活用して、個人として教科としての授業改善を実践するとともに、資格取得を奨励し、生徒の学力向上に努める。	① 思考力・表現力・コミュニケーション力の育成を目指し、効果的なICT活用やAL型授業を取り入れた研究授業や公開授業に取り組む。	授業改善に向けた研究授業や公開授業を、年間2回以上取り組んだ教師の割合が A 80%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満 【努力指標】	1月末までに教諭・講師29名のうち実施した人数 2回：19名(66%) 1回：7名(24%) 評価：B	教諭・講師29名のうち1月末までに研究授業や公開授業を行った回数と人数は、2回が19名、1回が7名となり、前年度とほぼ同数である。PC・タブレット端末等のICT機器を使用する授業やアクティブ・ラーニング型授業への取組が増えている一方で、授業の狙いの明確化が不十分であるなどの課題が見受けられる。 次年度も全員がより良い授業を目指し、公開授業などのあり方も考えながら、授業改善を進めていきたい。
	② 学力向上を図るために教科の宿題やレポートの出題方法と回数を工夫するとともに、授業と資格取得の補習指導を通して家庭での学習習慣を身に付けさせる。	宿題・レポート・資格取得など、家庭での学習活動について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった 【満足度指標】	生徒対象に 12月末にアンケート調査 A：35% B：53% C：12% D：0% 評価：A・B合わせて88%	生徒対象アンケート結果は、A・B合わせて88%となり、判定基準の80%を上回った。特にAは35%と中間評価から5ポイントアップした。これは宿題やレポート、資格取得に向けた学習によるものと考えられる。しかし、別の調査では家庭学習の取り組みができていない生徒が1/3程度いるのが現状である。 次年度も判定基準を継続しながら、基礎学力の定着や資格取得に向け、家庭学習が習慣化できるように取り組んでいきたい。
	③ 全教員が愛読書を薦めたり、昼食時の出前図書などの読書運動を全体的に行い、生徒に読書の習慣を身に付けさせる。	個人的な読書、授業や課題研究等の学習で、図書館の書籍を A おおいに利用している B ある程度利用している C あまり利用していない D 全く利用していない 【満足度指標】	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：22% B：26% C：27% D：25% 評価：A・Bあわせて48%	生徒対象アンケート結果は、A・B合わせて48%となり、判定基準の50%に僅かにとどかなかった。2学期には1・2年生を対象として朝読書を実施し、図書館の書籍利用は増加したが、積極的に書籍利用をするという意識は高まらなかった。 次年度も生徒の図書館利用促進及び書籍の貸出し数増加に向け、各教科とも連携をとりながら、継続的に取り組んでいきたい。
	④ 資格・検定取得の説明機会を増やして受験を奨励するとともに、土曜授業や課外補習を充実させ合格者数を増加させる。	1月末での資格・検定試験受験合格者数が学校全体で A 800人以上 B 700人以上 C 550人以上 D 550人未満 【成果指標】	1月末の資格・検定試験合格者数を検証 1月末現在では909人 評価：A	1月末現在の集計では、資格・検定試験合格者数は909人となり昨年度同時期の938人と比べると合格者数は29人減少したが、判定基準であるA評価(800人以上)を達成できた。2学期以降に受験した多くの資格・検定について、土曜授業をはじめ、工業3学科・クラス担任の連携した受験奨励および補習(朝・昼・放課後・夕方以降)の充実等とリスニング英語検定合格者の増加により目標が達成できたと考えられる。一方で、QC検定や危険物取扱者試験など一部の資格・検定試験での受験者数の停滞の課題もある。 次年度は土曜授業を取りやめることとしているが、生徒や教員の意識が低下しないように、判定基準を継続させ、受験奨励と指導の充実により合格者数を増加させたい。
	⑤ ジュニアマイスターのゴールドおよびシルバーの認定者数が学校全体で	ジュニアマイスターゴールドおよびシルバーの認定者数が学校全体で A 80人以上 B 65人以上 C 50人以上 D 50人未満 【成果指標】	1月の申請者数を検証 今年度認定者数88人 (ゴールド 30人) (シルバー 58人) 評価：A	1月末現在の集計で、ジュニアマイスター顕彰申請者の延べ人数はゴールド・シルバーの合計が88人となった。申請者数については昨年度の76名から12名増加した。また、「ゴールド特別表彰」については6人と昨年の9名より3名減少した。年間を通して認定者が増加したのは、各科・担任が資格取得を奨励したことと、早くから補習に取り組む、結果を残したことが要因として考えられる。 次年度も判定基準を継続するとともに、「資格・検定のすすめ」を利用しながら、高度な資格にも挑戦するよう奨励していきたい。
	⑥ インターンシップや地元企業説明会等により適切な進路選択を促進させるとともに、進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行なう。	各種進路指導行事・LHなどによる説明や進路情報により、意識が A たいへん高まった B ある程度高まった C あまり変わらない D 全く変わらない 【満足度指標】	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：41% B：54% C：5% D：0% 評価：A・Bあわせて95%	生徒対象アンケート結果、意識が高まった割合はA・B合わせて95%となり、判定基準の80%を上回った。10月の2年生全員参加のインターンシップでは、進路選択に役立ったとする生徒の割合は92%であった。12月の1,2年生全員参加の「地元企業を知る会」では自分の進路に役立ったという生徒は1年生が93%、2年生が99%と好評であった。 次年度は判定基準を90%に上げると同時にA評価の割合が高くなるよう進路指導課と学年団が協力し、行事や学年ごとで必要とされる進路資料の作成や活用方法を検討しながら計画的に取り組んでいきたい。
	⑦ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。 基礎学力の定着を図ると共に、授業でコミュニケーション力を付けさせる工夫を行う。 外部講師による講演や面接指導、全教員による個別面談・指導を充実させる。	朝学習や日頃の学習、面接指導などにより、基礎学力やコミュニケーション力が A たいへんついた B ある程度ついた C あまりつかなかった D 全くつかなかった 【満足度指標】	3年生を対象に 12月にアンケート調査 A：41% B：53% C：6% D：0% 評価：A・Bあわせて94%	生徒対象アンケート結果、実力がついた割合は、A・B合わせて94%となり、昨年度より2ポイント増加し判定基準を上回った。朝学習ではマトレやSP12演習、基礎学力定着用の問題などに対し落ち着いた取り組みを行った。今年度も6月から面接指導をスタートさせコミュニケーション力の向上を図った。また進学希望者に対しては、高校の基礎固めとして6月から1月まで毎日科目を決めて補習を実施してきた。 次年度も判定基準を継続し、企業の求める人材について研究し、その力を付けさせる様に努力するとともに、進学希望者に対しては上級学校進学後の学力保障も見据えて、補習等による効果的な指導を行ってきたい。
学校関係者評価委員会の評価		1回目の就職試験における内定率が A 90% B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【成果指標】	3年生を対象に 12月末に調査 内定率 96% 評価：A	12月までに1回目の就職試験を98名が受験して94名が内定した。内定率96%であり判定基準を上回った(1月末現在、公務員希望者1名が未定)。求人件数は、近年、県内・県外共に増加しており、恵まれた状況である。今年度は特に地元企業への内定者が増加し、地元の担い手として人材を送り出すことができた。 次年度も判定基準を継続し、従来の指導を継続させるとともに、企業の要望や求める人材の情報を積極的に集め、計画的に対応していきたい。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策				<ul style="list-style-type: none"> <li>なかなか家庭学習をしている姿を見かけない。テスト前はしっかり家庭でも勉強しているので、宿題や課題を出して勉強するように工夫して欲しい。</li> <li>図書の利用がそれ程伸びていないようだが、図書館の利用と併せて、新書が入った案内や図書を生徒玄関に置くなどすると、ちょっと借りていこうかなという生徒が増えると思う。</li> <li>図書室にある新聞を見るように扱いをしっかりとりたい。特に3年生に新聞を見るように指導して欲しい。各新聞社の1面の「コラム」を読んで、文章の作り方などを学んで欲しい。あれだけの字数で自分の考えをまとめてあるのはすごいと思う。</li> <li>企業の情報を集める方法として、就職した卒業生と直接コンタクトを取って聞くというのは難しいのか。求人票の情報は差し障りのない事しか書かないし、実際に入社後のギャップを学校が持ち、進路指導することは重要な事だと思う。定着しているOBに、実際の所を聞く方法も良いかもしれない。</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>共通教科と工業科の連携を図り、教科の宿題を出す回数を増やすとともに、工業科の資格検定についての課題を出すようにし、家庭学習時間を増やしたい。</li> <li>読書週間を各学年に1回ずつ作ったので、今後は少しずつ図書の利用が増えると考えている。また、生徒玄関の活用と国語科とも連携した本を読む仕掛けづくりを行ってきたい。</li> <li>新聞の活用については、今後、何か一つを取り入れたいと思う。入社試験や入学試験での面接や小論文・作文で、自分の考えを上手くまとめる力の育成に向けて、活用方法を検討したい。</li> <li>企業の就労状況について、PTA役員の方々や卒業生を通して、賃金や賞与、社内の雰囲気の実情の情報を得る方法を検討し、生徒の企業選びや保護者への説明に活用したい。</li> </ul>

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)	
2	心身ともに健康で逞しい(タフな)人づくりを目指し、部活動や生徒会活動の活性化に努めるとともに、規範意識を高めいじめを見逃さない学校づくりに努める。	① 本校の運動部は、県高校総体・新人大会で団体・個人とも上位を目指し、高体連表彰取組賞を獲得する。	高体連基準総合得点が A 7.5点以上 B 6.0点以上 C 5.0点以上 D 5.0点未満  【成果指標】	県総体集計結果 71.0点 評価: B	今年度高校総体総合成績が71.0点で、1・2学級以下及び500名以下の部門で取組賞を受賞した。昨年度の62.1点から大きく得点を伸ばした。この結果は、剣道部男子団体・個人での優勝、ヨット部男女の数々の優勝が総合得点獲得に大きく貢献した。その他にもソフトテニス部男子団体3位、相撲部3位、柔道部男子団体・卓球部女子団体のベスト8が得点を獲得したことによるものである。次年度も得点70点以上を獲得し、取組賞を目指しながら、部活動の積極的な取組を推進していきたい。
		② 文化部の重複加入を奨励し、各部の取組に、生徒が積極的に活動し、より良い成果を収める。	文化部の活動と成果に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない  【満足度指標】	生徒対象に 12月にアンケート調査 A: 4.5% B: 4.5% C: 5% D: 5% 評価: A・Bあわせて90%	生徒対象アンケート結果、A・Bあわせて90%となり、昨年度を6ポイント下回った。しかし、囲碁将棋部が全国高校総合文化祭、工業のジャパン・マイコンカーラリー出場と全国大会への出場が多く、文化部も素晴らしい成績を残した。また美術・デザイン部、写真部、書道部の地域での活躍が挙げられる。次年度も判定基準を継続し、文化部活動の積極的な取組を推進していきたい。
		③ 生徒会を中心にして行事への参画意識を高め、生徒が自主的に活動する行事にする。	生徒会行事に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない  【満足度指標】	生徒対象に 12月にアンケート調査 A: 3.9% B: 5.2% C: 8% D: 1% 評価: A・Bあわせて91%	生徒対象アンケート結果、A・Bあわせて91%となり、昨年より4ポイント下回ったものの高い評価である。年間を通して生徒会行事への参画意識が高く積極的に取組む姿勢がみえた。生徒は各種行事をとおしてクラスの団結力が強まり、学校生活を楽しんでいる。次年度も判定基準を継続し、生徒の自主性を育み、行事への参画意識を高めていきたい。
		④ 規範意識、思いやりの心を育むため、規範意識週間「読み聞かせ・話し合い・発表」を行い、より良い道徳心を身につける。	本校の教育活動や朝の読み聞かせ及び発表会により、規範意識やいじめ防止の意識が身についたか A 十分身についた B 少し身についた C あまり身につけていない D 全く身につけていない  【満足度指標】	生徒対象に 12月にアンケート調査 A: 4.8% B: 4.8% C: 3% D: 1% 評価: A・Bあわせて96%	生徒対象アンケート結果、「身についた(A・B)」と答えた生徒は96%となり、目標の判定基準の85%を上回った。規範意識週間「全校発表会」を7月と12月の2回行った。12月の発表会では、前回の発表会よりも成長した生徒の姿を見ることができた。堂々とした姿勢や、自分の体験から意見を発表するという素晴らしい内容のものばかりであった。現代の若者にはこのような取組が不可欠ではないかと思われ、次年度も取組を継続させ、より規範意識の高い社会人を育てていきたい。
		⑤ 保健だよりや集会、SH等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか A 常に意識している B ある程度意識している C あまり意識していない D まったく意識していない  【満足度指標】	生徒対象に 1月にアンケート調査 A: 1.8% B: 6.1% C: 1.6% D: 5% 評価: A・Bあわせて79%	生徒対象アンケート結果A・Bあわせて79%となり、判定基準の75%以上を達成でき、前年度同期とほぼ同数となった。冬期はインフルエンザや感染性胃腸炎等が流行しやすい時期となるため、感染症の予防を中心として、各自が心と体の健康管理ができるように、保健だよりや昼食時間帯の放送等を利用して、健康に対する意識を高めていきたい。次年度も、判定基準を継続し、取組を継続して実施しながら、生徒の心身の健康に対する意識を高めていきたい。
3	社会貢献や環境に対する意識を高めるため、工業学習成果の提供やボランティア活動等を積極的にを行い、地域社会との連携を深める。	① 社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、地域ボランティア活動や校外での一日一善運動を推奨する。	地域ボランティア活動や一日一善運動を通して社会貢献の大切さを理解しているか A 十分理解している B ある程度理解している C あまり理解していない D 全く理解していない  【満足度指標】	生徒対象に 12月にアンケート調査 A: 4.9% B: 4.6% C: 5% D: 0% 評価: A・Bあわせて95%	生徒対象アンケート結果、A・Bあわせて95%となり、昨年より2ポイント下回ったが高い評価である。社会に貢献する大切さや必要性を認識し、地域ボランティア活動や校外での一日一善運動の大切さは十分理解していることが読み取れる。これまでの取組が評価され、11月には県の「青少年ボランティア賞」を受賞した。次年度も判定基準を75%から85%に上げるとともに、取組に工夫を加え、より実践していく生徒の育成に努めていきたい。
		② 環境保全のこれまでの取組を向上させ、ゴミ分別や環境保全が正しく行われているかを評価し、美化意識の向上を目指す。	平均18点以上の教室が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満  【成果指標】	ISO委員により、1月に教室清掃を1週間調査(1日20点満点で評価)平均点が18点以上のクラスは、8クラス 89% 評価: B	今年度は6月・10月・1月に調査を行った。昨年度の最終評価で目標達成したクラスが5クラス(56%)であり、今回は8クラスとなった。全体の平均は19.4点であり、あと1クラスが目標とする18点に届かなかった。昼食時の放送による呼びかけや各担任の指導の成果が現れたものと考えられる。日頃からの清掃は社会人として重要なことであり、次年度以降も継続的にしっかりと清掃を行うことを学校全体で取り組んでいきたい。
		環境保全(ゴミの分別・節水・節電等)に取り組んでいる A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満  【満足度指標】	生徒対象に 12月にアンケート調査 A: 4.0% B: 4.8% C: 1.1% D: 1% 評価: A・Bあわせて88%	生徒対象アンケート結果、A・Bあわせて88%の生徒が環境保全に取り組んでいると回答した。90%は例年とほぼ同じ数値である。今後も判定基準を継続して、環境保全とともに環境美化についても保健指導課や生徒会課と連携を取りながら、生徒の意識の高揚と実践力を培っていきたい。	
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>規範意識週間の実践について、生徒はもう普通になり当たり前のように熱心に取り組んでいるが、保護者の方になかなか伝わっていない。PTA役員が1学期に参加したがとても良かった。保護者の皆さんにも取組を共有すると更に規範意識が向上すると思う。</li> <li>スマートホンの学校内での指導についてしっかりと欲しい。現在は、学校への持ち込み禁止など強い指導までしているのか、または授業中に出すのを禁止している程度なのか。</li> <li>「ものづくり」をとおした地域への貢献やボランティアの一つに「ゴミステーション」の製作がある。町会長会の中でも、安価で良いものを作ってくれと評判になっており継続して欲しい。</li> <li>生徒・保護者保護者への一斉メール配信について、休校の案内や配布物の連絡などに活用されているようだが、企業では緊急時の安否確認なども含めて、返信を求めている。学校も生徒に返信をして貰うようにしたら素晴らしい運用になると思う。</li> </ul>				
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>規範意識週間の取組は朝のSH前の10分間で行っているため、なかなか保護者の方に見てもらえない。読み聞かせや発表会の映像を地区PTAの折に見て頂くように検討したい。また、PTA会報等に生徒の感想文を掲載して、取組の様子を紹介していきたい。</li> <li>スマートホンの校内への持ち込みは禁止していないが、電源を切って鞆に入れるよう指導している。少人数ではあるが徹底できていない部分もあるので、次年度に向けて指導の工夫をしたい。</li> <li>工業の専門高校として「ものづくり」で地域と密着した学校にしたい。ゴミステーションや消防署の看板、地域の交通安全標識、環境保護の看板など、今後も協力できることをしていきたい。</li> <li>今年度はじめて一斉メールを運用してみて、やはり生徒からの返信が必要だという声が多く上がっており、来年度は緊急時も含めた確実な連絡体制を構築したい。</li> </ul>				